

小平革新懇が総会

激変と激動の政治情勢、革新懇運動の重要性語られる



小平革新懇は、11月22日総会。13名の出席で、世話人の10名、個人会員2名、団体会員1名で、日本共産党北多摩東部地区委員会の井手重美津子地区委員長も出席しました。北島代表世話人が「かつてない激変と激動の政治情勢ですが、お互いに連携と団結を強めて、革新懇の活動を進めていきましょう」と開会挨拶。末廣進事務局長が活動方針と役員の提案を行いました。11月の高齢者大会のアピールの内容に言及し、地域での市民と市民団体等の恒常的な連帯の強化を強調しました。轟世話人や井手重地区委員長らが発言し政治情勢の認識の緊急

性、革新懇運動の重要性などが強調されました。細谷共産党市議団長（代表世話人）が閉会挨拶を行い終了しました。

江戸川 戦後80年 戦争体験を語り継ごう 「子どもの頃に戦争があった」



今年は戦後80年。二度と戦争をしないと「日本国憲法九条」に定めたのは1946年です。10月に発足した高市政権は、これまでのどの政権以上にアメリカ言いなり・べったりの態度を取り、また、首相の「台湾有事発言」、首相官邸幹部の「核保有」発言など、「戦争する国づくり」への暴走を図る政権です。

こうした危険な動きが強まる中、12月20日、「戦争させない江戸川の会」「江戸川退職

教職員の会」「年金者組合江戸川支部」は、共催して「戦争体験を語り継ごう『子どもの頃に戦争があった』」のつどいを開催しました。

「つどい」では、60名を超す方が参加し、3名の体験者が、「学童疎開」「東京大空襲」「戦時下の生活」などについての体験を語りました。

「疎開を2回体験。学校に軍隊が入ったため、勉強は寺や神社で。疎開先での食べ物は粗末なものでしかなかった」

「4才の時に東京大空襲に。母の背中で逃げ、命が救われた。これが原点となり、その後の人生に大きく影響した」

「甲府で生活。昭和16年12月8日、国民学校生の時にラジオで真珠湾攻撃を知る。空襲もあった。B29から空襲予告のチラシが。多くの都民が殺され、友人も。1945年8月15日に玉音放送。何を言っているのかわからなかった」などと当時をふり返ります。

懇談の時間では、会場の参加者4名の方が自らの体験を報告してくれました。

「当時をふり返ると涙が溢れてしまい話せなくなってしまう」という方や「戦争の体験を語るのははじめてです。」と語る方もおり、戦争を体験した人が少なくなっている今こそ、戦争の悲惨さ、惨めさ、悲しさ、自由のなさなどを実際に体験した人から話を聞き、それを語り継ぐことが重要となっています。悲惨な歴史を繰り返すまいとする思いと「戦争のできる国づくり」を絶対に許さないという思いで会場一体となった「つどい」となりました。